純金の仏像

ある仏教寺院に、篤志家が金塊を寄進します。僧たちはその厚意に喜び、鍛冶職人に仏像を造るよう依頼します。ところが、その様子を物陰から盗賊が窺っていました。完成した仏像は、たちまち盗賊の手に落ちてしまいます。

突然の出来事にも、僧たちは嘆き悲しむことはありませんでした。しかし、仏像を取り戻すには、盗賊の巣に忍び込み、傷つけずに寺へ持ち帰らねばなりません。そんな難題を前にして、知恵と工夫を凝らした奇策を思いつく僧たち。やがて試みは功を奏し、再び仏像を手にします。さらに、佛法の威厳を前にして、盗賊たちは思いもよらぬ結末を迎えるのです——。

2026年の神韻芸術団の巡回公演では、中国古典舞踊劇『奇妙な出会い』において、この不思議で微笑ましい物語を世界中で披露し、数多くの観客の拍手を受けました。

仏像に関する不思議な物語は数え切れないほどあります。神韻芸術団のこの黄金仏像にかかわる物語を観た後、私も昔の仏像に関する体験を思い出しました。

1988年秋、私は招待を受け「自己肯定」がテーマの会議で講演をするため、妻と一緒に香港へ行ってきました。初めての極東地域のため、香港を後にしてからはタイを訪れることにしました。

バンコクに到着後、私たちはまず市内の有名な寺院を訪れることにしました。通訳と運転手の同行で、さまざまな寺院を回り、それぞれの荘厳さに感激していましたが、どれも一瞬の輝きでしかなく、すぐに記憶が薄れていきました。

しかし、ワット・トライミット（黄金仏寺院）という寺院は、忘れられない印象を残してくれました。

この寺院は敷地が広くなく、面積は約25坪ほどですが、境内に入ると、目の前には高さ約2.5メートル、重さ2.5トンにも及ぶ、全身が純金で造られた実心の仏像が現れました。慈悲の中に威厳をたたえたこの黄金仏像を仰ぎ見ると、言葉に表せない衝撃が心に走りました。

他の観光客が写真を撮ったり、仏像を見て感嘆したりしている間、私は近くのガラス展示ケースに、厚さ8インチ、幅20インチの土塊を見つけました。横の説明文を読んで初めて、この土塊には感動的な秘話があることがわかりました。

1957年、タイ政府がバンコク市内に高速道路を建設することを決定。予定路線上にある寺院は移転を余儀なくされ、寺院の僧侶たちは土でできた仏像を移動しようとしました。しかし、仏像は予想以上に大きくて重かったため、大事な仏像にひびが入ってしまいました。さらに悪いことに、その時激しい雨が降り出しました。寺院の老僧は神聖な仏像がこれ以上損傷しないよう、いったん仏像を元の場所に戻し、大きめの帆布で覆わせ、雨水から守ることにしました。

その夜、老僧は懐中電灯を持って帆布をめくり、仏像の状態を確認しました。懐中電灯の光がひびの部分に当たると、不思議な光が反射して戻ってきました。この土の仏像の中に何か別のものが隠されているのではないかと推測した老僧は、ノミと金づちを取ってきて、慎重に仏像の表面を叩き始めました。すると、最初の土片を叩き落とした瞬間、金色の何かが輝き始めました。老僧は作業を速めて、何時間もの苦労の末、ようやく、この純金で造られた仏像が再び世に姿を現しました。

歴史学者によると、何百年も前、ビルマ軍が当時シャムと呼ばれていたタイに侵攻しました。当時のシャムの僧侶たちはビルマ軍に略奪されないよう、貴重な黄金仏像の表面を泥で覆い保護しようとしました。後に僧侶たちは命を奪われましたが、仏像は無傷で保存され、1957年になってようやく再発見されました。

アメリカへ帰国する飛行機の中、私は考えました。私たちは皆、あの土の仏像のように、さまざまな理由で厚い殻を被っています。しかしその殻の下には、実は『金の菩薩』または『金のキリスト』がおり、それが本当の自分自身なのです。幼い頃から、私たちは心の中の黄金のように純真な自分自身を隠すことを学びましたが、今はあの老僧のようにノミと金づちを持って、殻を叩き落とし、純真な自分を発掘しようではありませんか。

（翻訳・慎吾）

1600年の城壁　洪水を止めた

8月10日、台風13号による風雨がピークを迎え、浙江省臨海市では、赤色とオレンジ色の警報が相次いで5つ発令されました。豪雨の赤色警報、台風の赤色警報、都市部の大雨による浸水のオレンジ警報、土砂災害の気象リスクに関する赤色警報、山間部の洪水災害に関する気象リスクの赤色警報です。現地の1日の降水量は255.4ミリに達し、過去最高を更新しました。城外を流れる霊江（れいこう）には、上流の豊渓（ほうけい）と永安渓（えいあんけい）から洪水が流れ込み、水位が急上昇し、一時は市街地の地面よりも高くなりました。



（中国SNS）

ネット上に流れた動画を見ると、城外では川の水が堤防を越え、道路や住宅をのみ込み、屋根だけが水面から見えるほど一面が水に覆われています。ところがカメラを城内に向けると、残っているのは雨によるわずかな水たまりだけで、場所によっては地面が完全に乾いています。城壁の内と外は、まるで二つの別世界です。

実は、川の水位が上がる前に、現地では人員を動員して数万袋の土のうを準備し、すべての城門を完全にふさいでいました。川の水を城外で食い止める一方、城内では雨によってたまった水を速やかに排出する作業も進めました。外から入る水は防ぎ、中にたまる水は排出する。この両方の対策を同時に行っていたのです。

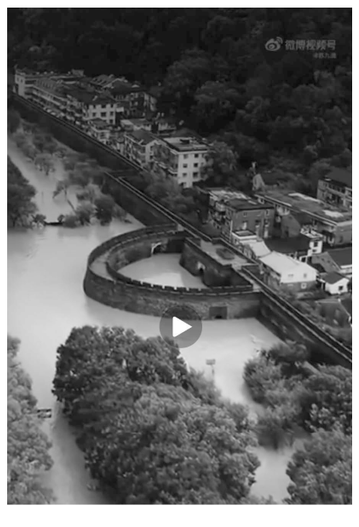
地元のネットユーザーは、こう振り返っています。「もともと土地が低いから、どうしようもない。でも今年は早めに土のうで城門をふさいだから助かった。そうでなければ、城内は本当にまた大変なことになっていた」。さらに、2019年に台風9号が襲来した際には、霊江の水位が急上昇し、洪水が城門から直接市街地へ逆流したといいます。紫陽街（しようがい）周辺の旧市街は広い範囲で浸水し、商店や住宅に深刻な被害が出ました。多くの地元住民は今も、あの災害を覚えています。別のネットユーザーからは、「昔の人は工事で少しの手抜きも許さなかった。天を敬い、大地を敬い、良心を敬っていた」とのコメントも寄せられました。

公開資料によると、台州城壁は「江南長城」「江南八達嶺」とも呼ばれ、東晋の安帝・元興元年（西暦 402 年）に建設が始まり、唐の高祖・武徳4年（西暦 621 年）に拡張されました。すでに1600年以上の歴史があります。台州城壁は軍事防衛と洪水対策という二つの機能を兼ね備え、全長は6000メートル余り、現在も5000メートル余りが残っています。歴代の城壁建設に携わった人々は、この土地が低く、川が増水しやすいという問題を早くから設計に織り込んでいました。だからこそ、この古城は1000年以上にわたる風雨を乗り越えてきたのです。

では、ここで一つ疑問が浮かびます。臨海市だけが特別なのでしょうか。同じように600年以上の歴史を持つ北京の故宮は、なぜほとんど浸水せずに済んできたのでしょうか。

北京の故宮は、完成から600年以上にわたって数え切れないほどの豪雨に見舞われてきましたが、ほとんど浸水したことがありません。特に激しい雨が降ると、故宮では無数の龍の排水口から一斉に水が流れ出す、「千の龍が水を吐く」ような壮観な光景が現れます。

唯一の例外は2023年でした。台風によって北京で深刻な洪水が発生した際、故宮でも一時的に水がたまり、多くの人から「古代の排水設計も、ついに限界を迎えたのではないか」と疑問の声が上がりました。ところが、その後、職員が地下の排水溝を清掃したところ、排水路をふさいでいたのは大量のペットボトルやビニール袋、タオル、さらには衣類でした。いずれも古代には存在せず、当時の人々には想定しようもなかった現代のごみです。それらを取り除くと、水はすぐにスムーズに流れるようになりました。つまり、故宮の排水システムそのものに問題があったわけではありません。600年前の人々には、後世の人々が地下の排水溝をビニール袋で詰まらせることなど、想像することもできなかったのです。


城壁の外は一面の水に覆われましたが、それでも城壁の内側では靴さえ濡れません。これは浙江省臨海市で実際に起きた光景で、川の水位は城壁の高さに迫りました。（中国SNS）

同じような例はほかにもあります。江西省贛州市（こうせいしょう・かんしゅうし）の古城は、「1000年水害知らずの街」として知られています。贛州城は東晋時代に建設が始まり、三方を章江（しょうこう）と貢江（こうこう）に囲まれています。城内には全長12キロを超える「福寿溝（ふくじゅこう）」があり、レンガや石で造られた地下水路が、市内にある大小100か所以上の池をつないでいます。そこに水をためることで、都市の浸水を防ぐ仕組みです。水路の曲がり角には、土砂を沈殿させる設備や泥を取り除く仕組みまで設けられており、後世の人々は定期的にたまった土砂やごみを取り除くだけでよく、水路全体を掘り返して掃除する必要がない仕組みになっています。

北宋の熙寧年間には、知州の劉彝（りゅう・い）が城壁の下に12か所の一方向式の水門を設けました。川の水位が城内より低いときは水門を開いて排水し、川が増水して城内より水位が高くなると水門を閉じ、川の水が逆流するのを防ぎます。外側では強固な城壁で水を防ぎ、内側では福寿溝によって水を流し、ためる。この内外両方に対応したシステムは、すでに1000年近く稼働し、現在もその役割を果たしています。パリの下水道より800～900年も早く建設されたとされ、中国古代の「スポンジ都市」の代表例とも呼ばれています。

さらに、江南や徽州（きしゅう）一帯の伝統的な住宅にも、浸水を防ぐための独自の工夫があります。徽州様式の建築では一般的に、「四水帰堂（しすいきどう）」と呼ばれる中庭の構造が採用されています。四方の屋根が中庭側へ傾斜しており、雨が降ると四方から雨水が中庭へ集まり、軒下の溝や地上の排水溝、地下水路を通って段階的に排出され、最終的には屋敷の外にある水路へ流れ込みます。これによって敷地内の浸水や水たまりを防ぐと同時に、「財を外へ逃がさない」という蓄財の意味も込められています。

この設計は、単に排水の問題を解決するだけではありません。中庭そのものが、夏には空気の流れを生み出して風通しを良くし、気温を下げる役割を果たします。冬には日光を取り込みながら、冷たい風を防ぐこともできます。まさに雨の多い中国南部の気候に合わせ、建物そのものによって排水と温度や風通しの調節を実現した、代表的な知恵だといえます。

数百年、あるいは1000年以上の時を超え、現在も機能し続けるこうした古代の施設には、現代の技術は使われていません。それでも、繰り返し襲う激しい豪雨から、一つの街を守り続けてきました。では、現代の都市は、先人たちが残したこうした知恵からどこまで学ぶことができるのでしょうか。

（翻訳・藍彧）

安心！快速！熱情！成功率高！
本人不用去入管申請手續全代理 愛知 行政書士玉田事務所
☑ 専門為中部地區中国人申請簽證 ☑ 年中無休 ☑ 初次電話詳談免費 中國語OK!
入管ビザ（簽證）申請専門
会社設立・投資経営
☑留学簽證轉成投資経営簽證
☑人文、技術、技能簽證轉成投資経営簽證
☑国内親屬、友人来日、投資経営
定住、永住、帰化
☑日本人配偶者簽證轉成永住、帰化
☑離婚後日本人配偶者簽證轉成定住
查証業務
☑各種簽證取得・更新・変更
☑国際結婚、家族滞在
☑日本人的配偶者
☑人文、技術、技能、投資経営など
法務業務
☑不法滞在者的在留特別許可
☑申請假釋
☑簽證被拒後，再申請
☑各種理由書作成

9:00~18:00 中国語SB 090－1729－8181
日本語SB 080－4123－8572
日本語 普通電話 0587－81－8100
FAX 0587－81－8102
〒492－8143
愛知県稲沢市駅前2-4-4 スカイル21 101
http://www.visa-aichi.com
入國管理局承認行政書士
玉田和弘